

第15期 新規メンバー募集のご案内

ソフトウェア開発マネジメント交流会議 ～ソフトウェア開発マネージャー、リーダーによる相互啓発と共同研究～

開催にあたって

近年、IoTやAIの実用化とともにソフトウェア開発をめぐる環境は、オープンソース、ネットワークとの融合、グローバル化の進展などの影響により急速に変わってきております。従来はハード中心だった商品設計からソフトウェアを中心とした商品設計の重要性が増しており、新しい課題としてソフトウェアによる価値創造という視点が大きなテーマとなっております。

一方、商品の高機能化や多様化によってソフトウェア開発の規模や量は増え続け、開発プロセスの革新や品質保証といった課題もいまだに重要性が高いと言えます。さらに、ネットワークにつながる機器が増えたことにより、セキュリティ対策といった課題も重要性がますます高くなっています。

当交流会議ではこのような課題認識の下、ソフトウェア開発の実務を担当しているマネージャー、リーダークラスの方々が集まり、現場で起こっている課題を持ち寄って討議をしながら具体的な解決策を模索しております。

第15期開催にあたり、強い問題意識を持った多くの方のご参加をお待ちしております。

第1回会合

※入会をご検討中の方は第1回に限り、無料で体験参加ができます。

【日 時】 2020年3月6日(金) 13:00～18:30

【会 場】 東京・表参道「アイビーホール」

■基調講演

企業競争力の強化に向けた デジタルトランスフォーメーション推進と政策展開

経済産業省 商務情報政策局 情報産業課

ソフトウェア産業戦略企画官 和泉 憲明 氏



経済産業省では、我が国企業がデジタルトランスフォーメーション（DX）を実現していくまでのITシステムに関する現状の課題の整理とその対応策の検討を行い、「DXレポート～ITシステム「2025年の崖」の克服とDXの本格的な展開～」として報告書を取りまとめた。本講演では、政策担当者の視点から、国内外のDX推進動向を踏まえ、同レポートを取りまとめるにあたっての問題認識や課題解決・競争力強化のための方向性について紹介する。

【略歴】 静岡大学情報学部 助手、産業技術総合研究所（産総研）サイバーアシスト研究センター研究員、（産総研）サービス工学研究センター・研究チーム長、（産総研）情報技術研究部門・上級主任研究員などを経て2017年8月より現職。博士（工学）（慶應義塾大学）。その他、これまで、東京大学大学院・非常勤講師、北陸先端科学技術大学院大学・非常勤講師、大阪府立大学・文書解析・知識科学研究所・研究員、先端IT活用推進コンソーシアム（AITC）顧問などを兼務。

■オリエンテーション

メンバー同士による問題意識の交流、懇親会

第2回会合

【日 時】 2020年4月10日(金) 13:00～17:00

【会 場】 東京・表参道「アイビーホール」

■講 演

“繋がる”社会とセキュリティ ～IoT製品セキュリティの現状とこれから～

パナソニック株式会社 製品セキュリティセンター

製品セキュリティグローバル戦略部 戰略課 課長 中野 学 氏



様々な製品がネットワークにつながる事で、セキュリティの脅威が高まっている。

近年ではセキュリティ上の問題が、組織だけでなく発売する製品そのものにも影響を与えるようになっている。本講演ではこれまでとこれからのIoTセキュリティについて、公開されている事例やパナソニックの取組みを交えて紹介する。

【略歴】2006年横浜国立大学 博士課程修了、同年から2016年まで（独）情報処理推進機構において、セキュリティ調査・普及啓発活動に従事。2016年4月から、パナソニック（株）製品セキュリティセンター所属。担当は国内外の製品セキュリティ強化に向けた各種課題解決、方針策定等。Panasonic-PSIRT (Product Security Incident Response Team) メンバー。

運 営 体 制

〈運営幹事〉

* 本交流会議の企画・運営にご協力をいただくと共に適宜、アドバイス・サポートをいただきます。 (順不同・敬称略)

シー・キュー・シー(株)	代表取締役社長	根 本 強 一
富士ゼロックス(株)	ソフトウェア&エレクトロニクス開発本部 ソフトウェア&エレクトロニクス開発企画統括グループ	斎 藤 芳 明
(株)東芝	ソフトウェア技術センター 所長	深 谷 哲 司
コニカミノルタ(株)	情報機器開発本部 開発イノベーションセンター プロセス改革推進部	中 嶋 丈
パナソニック(株)	イノベーション推進部門 イノベーション戦略室 戦略企画部 ソフトウェア行政 総括担当	南 光 孝 彦
(株)リコー	オフィスプリンティング事業本部 SP事業センター NP事業推進室 室長	田 川 敬 雄

〈アドバイザー〉

	元 運営幹事(第1期～第10期)	内 山 博 喜
(独)情報処理推進機構	社会基盤センター 産業プラットフォーム部 エキスパート	久 野 倫 義

参 加 対 象

ソフトウェア開発・技術部門、ソフトウェア品質保証・プロセス改善を担うマネジメントに係わる方々で、本交流会議の趣旨に賛同し、情報交流、相互啓発に積極的に参画いただける方々。

プログラムの基本的進め方

- ◆研究・討議・運営方法は運営幹事の協力・アドバイスをいただき進めてまいります。
- ◆メンバー各社の取り組み、抱える課題、問題、悩みなどを収集し、メンバーのニーズ、問題意識を浮き彫りにし、研究課題を集約・重点化します。
- ◆集約・重点化された研究課題はプログラムに反映させ、前半のゲスト講演、事例研究並びに後半の研究課題・グループ討議を通じて掘り下げ、課題解決・発展のヒントを相互に得合っていただきます。

ゲスト講演、事例研究： 13:00～14:30

■ゲスト、事例に学ぶ開発のマネジメント

主要企業のソフトウェア開発管理責任者等をゲストに招き、開発効率化、プロセス改善など具体的展開の苦心談、解決策を学びます。

課題研究： 14:40～17:00

■希望テーマに分かれてグループ討議（分科会）

メンバーの問題意識を集約・重点化し、整理された課題をテーマにして、希望に分かれて分科会形式でグループ討議・意見交流を数会合重ね、その結果を最終会合で報告し合い、成果を共有します。

研究会の特徴と基本方式

- 異業種交流を深めることにより、業種・業界の壁を越えた新しい発想や手法を学ぶことができ、また、社外のネットワークを広げパーソナルバリューの向上が図れます。
- ソフトウェア開発マネジメントの新しい流れや考え方、実践手法について、研究者・先進企業の事例研究により最新の情報を収集できます。
- 単なる情報交換だけでなく、その背景にある実務に直結したノウハウの交換が行えます。また、必要に応じメンバー企業間の資料交換も行います。
- フォーマルな研究活動に加え、インフォーマルな研究活動を隨時行うことで、信頼関係に裏打ちされた“ここだけの話”的なディスカッションが可能となります。

《メンバーの基本スタンス》

- 会の目的達成のため、可能な限りギブアンドテイク、全員参画体制をモットーに運営する。
- 本音ベースの議論を深めるため、互いに守秘義務を遵守する。
- 企業規模、職位、経験に関係なく積極的に会の討議・交流に参加する。

開催要領

■2020年3月6日～11月13日（毎月1回：全9回（合宿研究会1回含む））
 ■時間帯：13:00～17:00
 ■会場：東京・表参道 アイビーホール（第3回、第8回除く）

日程	研究テーマ/講演・討議内容日程	
第1回 3/6 (金)	<p>基調講演 「企業競争力の強化に向けた デジタルトランスフォーメーション推進と政策展開」 経済産業省 商務情報政策局 情報産業課 ソフトウェア産業戦略企画官 和泉 憲明 氏 経済産業省では、我が国企業がデジタルトランスフォーメーション（DX）を実現していくまでのITシステムに関する現状の課題の整理とその対応策の検討を行い、「DXレポート～ITシステム「2025年の崖」の克服とDXの本格的な展開～」として報告書を取りまとめた。本講演では、政策担当者の視点から、国内外のDX推進動向を踏まえ、同レポートを取りまとめるにあたっての問題認識や課題解決・競争力強化のための方向性について紹介する。</p>	<p>オリエンテーション ■メンバー同士による問題意識交流 ■懇親会（懇親、名刺交換）</p>
第2回 4/10 (金)	<p>講演 「繋がる」社会とセキュリティ —IoT製品セキュリティの現状とこれから— パナソニック株式会社 製品セキュリティセンター 製品セキュリティグローバル戦略部 戰略課 課長 中野 学 氏 様々な製品がネットワークにつながる事で、セキュリティの脅威が高まっている。近年ではセキュリティ上の問題が、組織だけでなく発売する製品そのものにも影響を与えるようになっている。本講演ではこれまでとこれからのIoTセキュリティについて、公開されている事例やパナソニックの取組みを交えて紹介する。</p>	<p>分科会研究 *下記例示の研究課題を参考に問題意識の強いテーマを取り上げ、全体研究・グループに分かれた分科会研究を通じて問題解決策を意見交流し、実践手法、マネジメントのあり方を掘り下げる。</p>
第3回 5/15・16 (金・土)	<p>合宿研究会（滋賀県長浜市のホテルを予定）</p> <p>PART1：希望テーマに分かれて グループディスカッション</p> <p>PART2：分科会の年間計画の発表と 意見交換</p>	
第4回 6/12 (金)	<p>講演 ※メンバーの問題意識をもとにゲストを選定</p>	
第5回 7/10 (金)	<p>講演 ※メンバーの問題意識をもとにゲストを選定</p>	
第6回 8/21 (金)	<p>講演 ※メンバーの問題意識をもとにゲストを選定</p>	
第7回 9/11 (金)	<p>講演 ※メンバーの問題意識をもとにゲストを選定</p>	
第8回 10/9 (金)	<p>分科会 会場：パナソニック（株）福岡事業所 分科会研究—最終会合に向けたまとめ</p>	<p>■テーマの例示</p> <ol style="list-style-type: none"> ビジネスモデルとマネジメント IoT機器／サービスを活用した顧客価値とビジネスモデル 参入障壁の抽出とその対応 エコシステムなどを使った具現化手法 2030年に向けてこれから日本のソフトウェア ソフトウェア開発マネジメントとエンジニアリング ソフトウェア開発手法、セキュリティ対策 異システム間連携の品質保証、システム検証 オープンソースの活用と品質確保 ソフトウェア開発におけるプロジェクトマネジメント プロジェクトマネジメントに有用なツール、手法 リスク、コスト、進捗のマネジメント アウトソーシング（オフショア、分散拠点など含む）マネジメント ソフトウェア開発の品質保証 ソフトウェア品質量化、可視化の考え方と方法 顧客視点からみた品質指標の活用 不具合流出防止のためのテストの在り方 上流工程からの品質保証 ソフトウェア開発のプロセス改善と効率化 開発プロセスの設計、見える化、計測 上流工程、下流工程での改善施策 ソフトウェア開発のスピードアップ、自動化施策 アジャイル型開発の活用 要件開発と管理方法 品質クライテリア、品質保証 技術者育成 ソフトウェア開発者的人材育成と組織活性化 求められる人材像とスキル仕様の明確化 経験／知見の顕在化と属人性からの脱出（ツールと手法） モチベーション向上施策 競争力を高めるための最適地開発 マーケットニーズ捉えるための海外、国内の開発拠点の展開 コストベネフィットを意識したオフショア、ニアショア 開発拠点のマネジメント方法 ソフトウェア開発におけるデジタルトランスフォーメーション（DX） DX事例研究（事業視点、開発視点） DXのパターン DXにおけるソフトウェア開発のポイント
第9回 11/13 (金)	<p>総括研究 ①分科会のグループ討議成果報告と全体討議 ②修了懇親会—今後の研究活動活性化のために</p>	

講演テーマなど

第1回	「世界に冠たる日本企業復活に向けた処方箋 —私たちはどこで間違ってしまったのか—」 パナソニック(株) イノベーション戦略室 ソフトウェア戦略担当理事 ▶オリエンテーション	
	「AIプロダクトに対する品質保証の基本的考え方」 電気通信大学 大学院 情報理工学研究科 情報学専攻 経営・社会情報学プログラム 講師 ▶分科会研究:希望テーマに分かれて問題意識の交流、共通課題の抽出	
第3回	合宿研究会	①分科会テーマ別グループディスカッション
		②分科会の今後の研究課題、議論の方向、まとめ方
第4回	「良いUXとは、それをいかに設計するか」 一般社団法人UX設計技術推進協会 代表理事 UX測研 代表 ▶分科会研究	
	「アジャイル開発×働き方改革—価値生産性の向上とモチベーション3.0の実現—」 伊藤忠テクノソリューションズ(株) 流通・EPビジネス企画室 アプリケーションビジネス推進部 プロジェクト推進第3課 課長 ▶分科会研究	
第6回	「海外ATM分野で求められるセキュリティ対策の考え方」 日立オムロンターミナルソリューションズ(株) トータル紙幣ソリューション事業推進本部 本部長付 ▶分科会研究	
	「成功事例に学ぶシステムズエンジニアリング ～IoT時代のシステム開発アプローチ～」 (独)情報処理推進機構 社会基盤センター 産業プラットフォーム部 エンジニアリンググループ グループリーダー ▶分科会研究	
第8回	▶分科会 最終会合に向けた分科会を中心とした集中討議	
第9回	総括研究	①分科会 成果発表会—7分科会の発表と全体意見交流 ②終了懇親会—メンバー評価の高かったグループの発表

前 期 参 加 企 業

(24社58名 本社・事業部のソフトウェア開発部門の部課長及びグループ・チームリーダーの方々)

シー・キュー・シー(株)	理想科学工業(株)	東芝テック(株)
富士ゼロックス(株)	村田機械(株)	パイオニア(株)
サンリソートメイション(株)	プラザー工業(株)	トヨタ自動車(株)
(株)東芝	富士電機(株)	セイコーエプソン(株)
(株)リコー	ダイキン工業(株)	(株)ベリサーブ
コニカミノルタ(株)	三菱電機(株)	キヤノンファインテックニスカ(株)
パナソニック(株)	リコーITソリューションズ(株)	パーソルAVCテクノロジー(株)
エイムネクスト(株)	ヤンマー(株)	パクテラ・テクノロジー・ジャパン(株)

※順不同

第14期メンバーの声

- ・普段知り合うことが難しい社外のメンバーと知り合えたのは、非常に貴重で有意義だった。
- ・分科会は、半年以上取り組んだテーマだけあって、どのグループも非常に内容が深く、良い内容だと思いました。
- ・業務に直面している気になっている点についてのテーマ・講義があり、とても参考になりました。
- ・各分野のトップランナーの話は、良い刺激になり、自分のマインドが変わりました。
- ・人脈が広がった。
- ・参加前に考えていた問題点の解決方法が、具体化出来た。
- ・講師は、良かったと思います。
- ・他社との交流、いろいろな視点の意見の交換が出来て、とても刺激になった。
- ・毎回、新しい発見を期待していました。
- ・最前線の情報が入手でき、毎回楽しみでした。
- ・世の中のトレンドに合わせたテーマについて、先端の講演が得られた。
- ・良いテーマのものが多く、とても参考になりました。
- ・興味のあるものからなったものまで、多岐に亘りPick upされていたので、良かったです。
- ・ないものは、こういう時でないと自ら触れないでの。
- ・それぞれのエキスパートの方の講演は、私の知らない知識がたくさん発表され、大変有効なものでした。

本交流会議における分科会研究活動とは

メンバーの問題意識、課題をベースに、例示に研究課題を参考に優先順位の高い希望テーマに分かれて分科会(研究グループ)を編成。第2回会合以降、都合7回の研究討議を重ね、それぞれに成果をまとめ、共有の財産として残し合い、メンバー各社の現場で活かされています。

第14期は7つのグループで分科会研究活動を行いましたが、ここでは紙面の関係上、3つの分科会発表資料の一部を紹介しております。

Gグループ：ソフトウェア開発者的人材育成と組織活性化

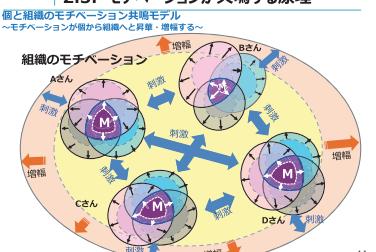
1.2. わたしたちの仮説

*「自己組織化」はモチベーションの共鳴で生まれる
「自分のモチベーション」は人の間に共鳴・増幅し、「プロジェクトのモチベーション」へと昇華する。「自己組織化」されたプロジェクトとは、こういう状態であるに違いない。

*「プロジェクト道」で力を育てる
プロジェクト活動の直近の目標はQCD達成であるが、プロジェクト活動の振り返りを通して組織力を磨き、メンバー個々の自己実現に繋がることを目標とした「プロジェクト道」のようなものを考えることができるのはないか?

以上から、今回の研究テーマを
「モチベーションが共鳴する組織
～プロジェクト道～」
と設定した。

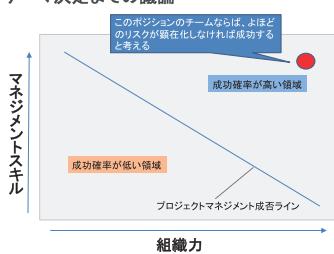
2.3. モチベーションが共鳴する原理



プロジェクトを通じて人を育成するプロジェクト「道」を提案

Cグループ：ソフトウェア開発におけるプロジェクトマネジメント

1. テーマ決定までの議論



4. 我々にできるティール組織

世間ではティール組織に移行する会社もある
↓
現実問題として、我々の会社でティール組織を適用するのは難しい
↓
自分のチームをティール組織的にして組織力をUPさせよう
部分的なティール組織
=Cyan(試案)組織と命名

7. まとめ

・今回、ティール組織の存在を知り、目から鱗が落ちた感じだった(600ページ弱の小本で苦労したが)
・ティールの3つのブレークスルーのうち、自分のチームでできるところを実践するCyan組織を行ってみた。組織力をUPさせるためには、それなりに有効であることが実感できた。
・独自経営に関しては、業務請負のメンバーに対しての適用は難しい(議論したが結論出ず)。また自分自身で守備範囲を決めてしまって、支援を受けて仕事をした方が好きな人にも厳しい
・今後は、各自Cyan組織を継続実行して、自チームの組織力UPをはかっていこうと考えている

組織力アップのためのティール組織をより適用可能なティール組織=Cyan(試案)組織としての適用を提案

Fグループ：アジャイル型開発の活用

2. テーマ選定経緯 (3)

主取組

ECサイトをAgileで開発してみる

進め方

- ・開発対象：新車販売Web
- ・メンバーで役割分担 (SCRUMベース)
- ・各自の持つ課題をストーリーに差込んで、解決策を考える

4. 実施内容 (7)

スプリント実施



6. 今回活動で得られたこと (4)

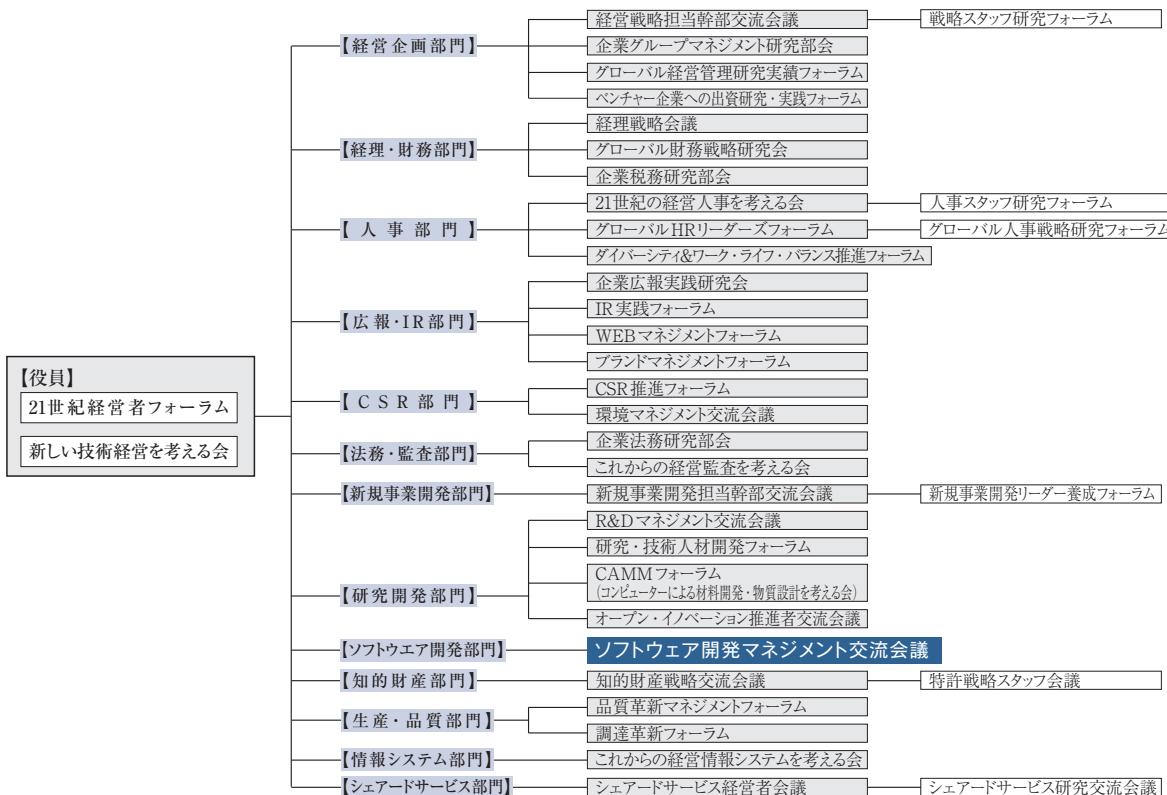
Slackの効能



コミュニケーションツールをSlackに統一したところ

スムーズな意思疎通を実現できた

実際にAgileを活用してECサイトを開発、スクラムにSlackを利用するなど、Agile開発の新たな可能性を提案



第15期 ソフトウェア開発マネジメント交流会議 申込要領

参加費
1社2名

正会員 231,000円(本体価格210,000円)

一般 258,500円(本体価格235,000円)

1社2名まで参加可能です。

・但し、全体で開催する5月の合宿研究会は別途実費をご負担いただきます。

*分割請求（2分割、月割など）やお支払い時期についても承りますので、お気軽にご相談ください。

申込方法

以下のいずれかの方法でお申し込みください。

(1) Web : ホームページよりお申し込みいただけます。 [企業研究会 ソフトウェア開発マネジメント交流会議](#)

検索

(2) 担当者へのメール : 以下の項目を金井 <kanai@bri.or.jp> までご送信ください。

①御社名 ②所在地 ③正・副ご登録者名(ふりがな) ④ご所属・お役職 ⑤E-mail ⑥TEL ⑦FAX

お問い合わせ

*本交流会議の詳細については、お気軽に下記担当までお問い合わせください。

一般社団法人 企業研究会 担当：金井

〒102-0083 東京都千代田区麹町5-7-2 MFPR麹町ビル 2F

TEL : 080-2103-6840(金井) / 03-5215-3511(代表) FAX : 03-5215-0951

E-mail : kanai@bri.or.jp URL : <http://www.bri.or.jp>

申込書「第15期ソフトウェア開発マネジメント交流会議」(190187)

一般社団法人 企業研究会 宛て

2020年 月 日

会合の趣旨に賛同し、参加を申込みます。 検討中のため体験参加で申込みます。

FAX : 03-5215-0951

会社名	会社所在地 〒	—		
正登録	(フリガナ) 氏名	所属・役職名	T E L	()
			F A X	()
副登録	(フリガナ) 氏名	所属・役職名	E-mail	
			T E L	()

その他（備考）所属の住所が正登録、副登録者の住所が異なる場合はお知らせください。

副登録者は主登録者と共に会合に参加いただける方です。特におられない場合は、空欄でも結構です。

お客様の個人情報は、本交流会議に関する確認・連絡および当会主催のご案内等をお送りする際に利用させていただきます。